

6月16日

瑞浪市少年の主張大会

6月16日に、今年度の瑞浪市少年の主張大会が瑞浪市総合文化センターで行われました。瑞浪北中の初代代表者は3年生の與川賢樹君。「挑み続ける心」と題して、自分の思いを熱く語りました。

ソフトテニスを通してこれまでの自分を成長させてきた彼ですが、決しておごることなく、常に挑戦する気持ちを持ち続けることの大切さを主張しました。とりわけ、メンタルな部分の強化を目指し、それをテニス以外の生活でも発揮することを目指します。「テニスで一流」を目指すだけでなく、「テニスを通して人としても一流」を目指す主張には力強さがありました。



「挑み続ける心」

ネバーギブアップ！

「明日への希望と共に、一人一人が大きな花を咲かせることのできる日本に」そんな願いが込められ『令和』という新しい時代が始まりました。新しい時代の始まりと共に、僕たちの瑞浪北中学校も開校しました。僕は、瑞浪北中の3年生として、土台を創り上げ、一人一人が大きな花を咲かせるよう、まず、自分自身に問いました。僕自身が語れること、それは部活動であると考えました。僕は、テニス部に所属し、これまで悩み、考え続けながら、大きな花を咲かせるように挑んできたからです。

ソフトテニスは、ペア競技ですが、団体戦で上を目指していけたらとチームみんなで頑張ってきました。練習試合を重ねることで、プレーに自信がもて少しずつ勝てるようになりました。しかし、勝ち進むことの難しさも感じています。集中力、技術、メンタルの弱さが課題となっています。自分に何ができるのか思い悩みました。

そんな時、シングルの大会であるきっかけをつかむことができました。それは、僕にとって大きな経験となり、「負けたら終わり」というトーナメントの大会でした。緊張感や初戦の立ち上がりにも苦しみながらも、気持ちがいつも以上に高まりました。でも、気合いが入ったというよりは、自分自身を見つめる自分がいました。そして、その自分に対して、心の中で声を出しました。「やればできる。」「まだまだ自分ならいける。」等自分の頑張りを回想したことで、奮い立たせ気持ちで負けない強さをもつことができました。これまでも声を出してはいましたが、自分の心には届かず、整理がつかず気持ちばかりが先行し、あせりや集中力に欠けるプレーとなっていました。このように、もう一人の自分をつくるのが、挑み続ける僕自身の糧となりました。

また、自分だけではなく、ペアの仲間や家族からも頂いた言葉が、僕自身の心の中の声として深く残っていました。信頼してくれる仲間や自分に期待してくれる家族の言葉が、いつも以上に心にさざりました。僕は、誰よりも声を出して仲間と共にできる楽しさを前面に出し、挑むことに心がけることができるようになりました。

そして、さらに僕自身にとって成長できる出来事がありました。それは、昨年度、岐阜代表チームとして団体戦に挑んだ時のことです。残念ながら、最終選考には残れませんでした。しかし、この敗戦から、キャプテンとしての仕事、声をかけ続けることができた自分、仲間が全敗してもチームのために尽くすことに気付けたことが僕自身にとって大きかったです。チームに戻りこの経験を生かそうと、挑み続けることの難しさとまだまだ自分自身鍛えないといけないメンタルの大切さを改めて感じました。ネバーギブアップだと。

チームのみんな、コーチ、先生、家族、みんなの支えがあったからこそ、大きな挑戦ができたことを実感しました。今、僕は、ソフトテニスを通して、心を鍛えています。

今も、この瞬間を大切に挑み続けます。そして、テニスで学んでいることを瑞浪北中の3年生としてあいさつ、行動力、何事にも挑む心を自分の姿で示し、大きな花を自分自身がまず咲かすことができるように挑み続けます。何事にも挑み続ける心を忘れずに過ごしていきたいと改めて強く感じました。

ネバーギブアップ！

